

島根大学医学部附属病院の寄附講座の継続について**1 経緯等**

全国の死亡原因の第 1 位は、昭和 5 6 年以降、悪性新生物（がん）が占め、平成 27 年度では 28.7%、2 位が心疾患（15.2%）、3 位が肺炎（9.4%）、第 4 位が脳血管疾患（8.7%）となっています。出雲市の状況も、全国と同様の傾向であり、がんによる死因は依然として高い状況にあり、引き続き、高度な治療が受けられる体制の確保が課題となっています。

平成 19 年 2 月、本市は出雲地域のがん医療水準向上等を目的とする「出雲市がん撲滅対策推進条例」を制定し、平成 20 年 2 月には市の寄附講座として島根大学医学部附属病院先端がん治療センター内に「がん臨床研究部門」を設置しました。

これにより、現在では、抗がん薬治療の中心となる「がん薬物療法専門医」6 名、「血液専門医」8 名が、同先端がん治療センターに在籍し、抗がん薬治療の拠点として機能しています。

同寄附講座は、平成 25 年度から 5 年間の協定であることから、平成 30 年 3 月末をもって期限を迎えますが、依然として死因の一位が悪性新生物（がん）となっており、市民が安心して先進的ながん治療を受けられる体制の維持が必要であると考え、継続していく方針です。

2 寄附実績

■平成 20 年 2 月 1 日から平成 25 年 1 月 31 日（5 年間）

寄附総額 128,000 千円（年間 25,600 千円）

■平成 25 年 2 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日（5 年間）

寄附総額 125,000 千円（年間 25,000 千円）

※平成 25 年度から予算措置

3 継続案

期 間 5 か年（平成 30 年 4 月 1 日から平成 35 年 3 月 31 日）

寄附予定額 5 か年で 125,000 千円（年間 25,000 千円）

※平成 30 年度からの予算措置を 3 月議会へ提出予定